

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 84人 |
| ② 数学 | 83人 |
| ③ 英語 | 83人 |

5 留意事項

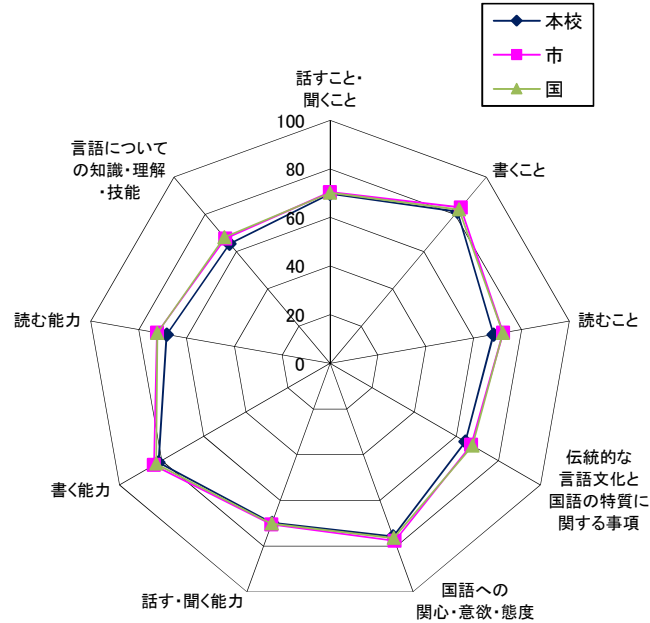
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.8	70.5	70.2
	書くこと	81.5	83.7	82.6
	読むこと	68.3	72.3	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.3	67.1	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	75.8	77.7	76.5
	話す・聞く能力	69.8	70.5	70.2
	書く能力	81.5	83.7	82.6
	読む能力	68.3	72.3	72.2
	言語についての知識・理解・技能	64.3	67.1	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

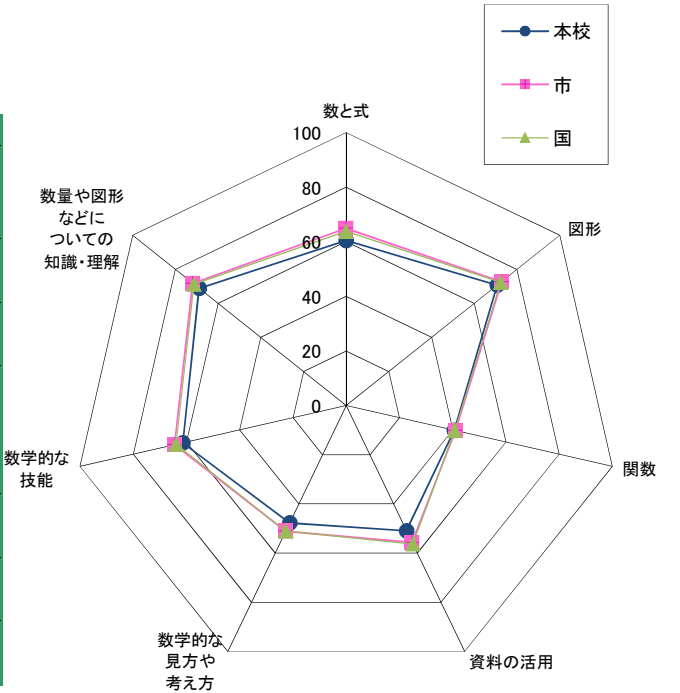
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手に分かりやすく伝わる表現について理解する問題の正答率は全国平均より4.3ポイント上回っている。 ●正答率が全国平均より0.4ポイント下回っている。 ●話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題の正答率が全国平均より4.6ポイント下回っている。	・授業中、実生活に結び付くような言語活動を多く取り入れ、聞いたことから更に自分の考えを整理する活動を意識して行っていく。 ・「一分間スピーチ」や「意見発表」、「聞き方テスト」などを通して、意識して聴いたり、ポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせていく。
書くこと	○書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題の正答率は全国平均より0.7ポイント上回っている。 ●平均正答率が全国平均より1.1ポイント下回っている。	・「書く」ことへの抵抗をなくすよう、自分の思いを短文に書かせる活動を授業中、多く取り入れる。 ・作品の読解や作文単元を通して、「感想文」「要点・要旨のまとめ」「意見文」「主張文」など様々な文章を書かせる。 ・一つ一つの言葉を意識し、適切な言葉を選択させる活動も授業中に多く取り入れていく。
読むこと	○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ問題においては、全国平均より平均正答率が5.4ポイント上回っている。 ●平均正答率が全国平均より3.9ポイント下回っている。 ●文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題の平均正答率が全国平均より10.3ポイント下回っている。	・物語、論説文などを読むことに関しては、比較的抵抗なく取り組むことができている。しかしながら、実生活に結び付くような資料の読み取りについては苦手意識が見られる。また、教科書のテキストだけでなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を今後も多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率が全国平均より3.4ポイント下回っている。 ●語の一部を省いた表現について、語や文章の中での適切な活用の仕方を理解する問題の正答率が全国平均より4.9ポイント下回っている。	・「漢字」や「語彙」を知ってはいても、それを日常生活で適切に使いこなせていない状況が見て取れる。今後も理解し、それを使えるような指導を継続的に行っていく必要がある。 ・用言の活用については、教科書の内容だけでなく、様々な問題に取り組むようにする。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	60.5	64.9	63.8
	図形	70.8	72.8	72.4
	関数	40.6	41.1	40.8
	資料の活用	50.9	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.7	51.1	51.0
	数学的な技能	61.4	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	68.9	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する問題では、正答率が全国平均より3.9ポイント上回っている。 ○連立方程式を解く問題では、正答率が栃木県平均より0.7ポイント上回っている。 ●平均正答率は全国平均より3.3ポイント下回っている。 ●与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的をとらえる問題では、正答率が全国平均より9.2ポイント下回っている。	・式変形の意味について、変形する理由を確認する時間をとる。一つ一つの式の意味についても言葉で表現できるようにする。 ・計算問題をただ解かせるだけでなく、理解できているかどうか確認できる問題に取り組ませる。
図形	○証明に応じた三角形の合同条件を選ぶ問題では、栃木県平均より4.5ポイント上回っている。 ○反例の意味を理解しているかの問題では、3.2ポイント上回っている。 ●平均正答率は全国平均より1.6ポイント下回っている。 ●結論を成り立たせるために新たな事柄を見つける問題では、全国平均より12.3ポイント下回っている。	・3年生で「相似な図形」「円」の単元において、図形の用語、定義や定理、証明の書き方など、1、2年生の内容も踏まえながら指導にあたる。 ・数学的思考を用いた問題にも取り組ませ、多面からどう答えるべきかを考える力を養う。
関数	○平均正答率は栃木県平均より0.3ポイント上回っている。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、栃木県平均より3.3ポイント上回っている。 ●グラフの意味を解釈する問題では、全国平均より1.2ポイント下回っている。	・3年生で「2乗に比例する関数」の学習の際に、比例・反比例、1次関数の既習事項の復習を繰り返し指導する。また、表・式・グラフを関連させながら、それぞれのよさを生徒に気付かせる。 ・問題からグラフが示すものを見つけさせる。
資料の活用	○資料の傾向から数学的な表現を用いて説明する問題では、栃木県平均より1ポイント上回っている。 ●平均正答率は全国平均より4.3ポイント下回っている。 ●表から最頻値を読み取る問題では、栃木県平均より9ポイント下回っている。	・3年次の標本調査の単元において、資料の整理と活用、確率など1、2年生の復習を確実に取り組む。 ・文章から表が何を表しているのかを読み取り、考える力を育成する。問題文をよく読むことを指導していく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●規範意識に関する質問3つのうち2つは、県、全国の肯定的割合より下回った。「学校のきまりを守っていますか」の肯定的回答は、94.1%である。9割は超えているが、県、全国と比較すると、それぞれ2.5ポイント、2.1ポイント下回っている。きまりの意味や必要性を考えさせたり、道徳の時間などにおいてきまりについて考える活動を行ったり、規範意識を醸成していく。「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答は、82.1%である。全国と比較すると、8ポイント低い。体験的な活動と道徳の時間を連動させ、思いやりの行動を習得させながら、思いやりの心を育てる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答は、97.6%であり、県、全国と比較しても上回っている。いじめゼロ集会や嫌な思いアンケートを定期的に実施しており、いじめに対する意識を高め、いじめに至る前の未然防止に効果が上っていると思われる。

○生活習慣・学習習慣に関する質問4問のうち3問は、県、全国の肯定的割合を上回った。特に、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答は、70.3%であり、県の肯定的割合58.0%、国の肯定的割合50.8%を大きく上回った。家庭学習の習慣化を目指した指導を継続してきた成果が表れている。今後は学習内容の質の向上と、自己認識の理解も深めたい。

○自己有用感に関する質問3問は何れも全国の肯定的割合より上回った。特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的割合は89.2%であり、県よりも2.6ポイント、全国より7.7ポイント高い。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか」の肯定的割合は94.1%で、県よりも5.9ポイント、全国より9.5ポイント高い。

●「新聞を読んでいますか」の質問に対して、「ほぼ毎日読んでいる」と回答している生徒は1.2%と低く、「週に1～3回程度読んでいる」の回答を合わせても、9.5%であり、県よりも4ポイント、全国よりも3.2ポイント低い。

○「地域社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の肯定的回答は63%で、県よりも16ポイント、全国よりも23.6ポイント高い。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的回答も、県、国を上回っており、地域のことを知っており、郷土愛がある生徒が県や全国と比較して多いからこの回答と思われる。

○学級活動に関する質問、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の肯定的回答は88.1%、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」の肯定的回答は84.5%で、どちらも、県、国を大きく上回った。大方の生徒にとって、互いの意見のよさを高め合い、帰属意識も高まっていると考えられる。しかし、少数であるが人間関係においてトラブルを抱える生徒もいる。自己有用感や自己決定の場を与えながらさらに向上を目指したい。

宇都宮市立上河内中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・表現力を高め、自分の考えを伝え合うことのできる生徒の育成。	・グループ活動や話し合い活動、発表の機会を意図的に授業の中に設定し、多様な意見や価値観に触れさせ、学びを深める。	・「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」、「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の肯定割合はいずれも、県及び国を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎的・基本的内容の定着が不十分である。平均をかなり下回る生徒も多い。 ・問題別調査結果では、国の正答率より国語の読むことは3.9ポイント、数学の資料の活用は5.4ポイント下回っている。 「読書は好きですか」、「新聞を読んでいますか」の肯定的回答も、国、県よりも下回っている。	・家庭学習において、復習を及び反復学習を充実させることで、基礎的・基本的内容の定着を図る。	・家庭学習ノートを活用し、ドリル学習に取り組ませる。一人一人の学習状況を把握し、学習状況に応じた課題に取り組ませる。 ・読書時間の充実、授業等での新聞の活用などを取り入れ、読むことや内容の理解を深めさせる。